



グリフィンズ2戦目は、昨年リーグ2位の立教大学ラッシュャーズ。

SPRING GAME 2th 2024年5月5日(日)K.O14:00 アミノバイタルフィールド 天候:晴

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
 立教大学 RUSHERS	0	7	3	14	24
 明治大学 GRIFFINS	3	13	7	0	23



1Q

立教のキックで試合開始。

立ち上がり、明治攻撃は #34 廣長(4年生)と #25 井上(4年生)のラン、 #89 金子(3年生)のミドルパスで相手陣まで進むと #4 近藤(4年生)が逆風の中、47ヤードのフィールドゴールを見事に成功！
 3 - 0 と先制する。
 明治守備は立教エース RB 29 星野のランで前進許すも、粘り強い集まりで得点は許さない。



2Q

2Qに入ると #4 近藤(4年生)が2本目のフィールドゴールを決め更にその後の自陣からの攻撃も #8 宮川(4年生)へのミドルパス #25 井上(4年生)、 #34 廣長(4年生)のランで相手陣まで攻め込み最後は #89 金子(3年生)への25ヤードパスでタッチダウン！
 13 - 0 とする。

明治ペースで進むかと思われたが 次の立教攻撃シリーズではスクリーンパスでロングゲインを許すと、ゴール前から立教 #16 へのパスでタッチダウンを取られ 13 - 7 となる。
 1本返された明治だが前半終了間際には DB #23 斎藤(3年生)がインターセプトし攻撃権を得ると #4 近藤(4年生)が、この日3本目となる FG を決め 16 - 7 で前半終了。



3Q

後半、オフェンススタートの立教大学。

最初の攻撃はテンポのいいパス攻撃で前進されるがDB # 31大島(3年生)がインターセプトに成功。
 攻撃権を得た明治は再び#25井上(4年生)、# 34廣長(4年生)のランで敵陣に進むと、ルーキーWRの # 5後藤 珠(1年生)が30ヤードのロングパスをエンドゾーン内で倒れ込みながら好捕しタッチダウン！。23-7とする。
 後半からパスのテンポが良かった立教はその後の攻撃でもミドルパスをつなぎFGで3点を返し23-10とし最終4Qへ。



4Q

立教の攻撃をパントに追い込んだ明治守備だったが、パントリターンで痛恨のミスが出てしまう。再び攻撃権を得た立教にタッチダウンを取られ23-17とされる。
 リードを広げたい明治は# 21高橋(3年生)が相手タックルを上手く外しながら80ヤードの独走ランでゴール前まで進んだが、ホールディングの反則があり得点に結びつかず。
 試合終了まで残り3分を切り 自陣から立教に攻撃権を与えてしまう。
 立教は時間を使いながら# 29のランでゴール前まで進むと 最後は残り12秒でまたしても# 16へのパスでTD TFPも決められ23-24 試合終了直前に逆転され ゲームセットとなった。



昨年の東京ドームに続き、またしても試合終了間際に悔しい負け方をしたGRIFFINSだが、秋にはリベンジしてほしい。立教戦のパス成功率は35%得意のランを出す為にもパス攻撃の改善に期待したい。



◆立教大戦を振り返って

立教戦にて、幹部を中心に選手、学生スタッフ、コーチ陣にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

◆インタビュー #6 主将 深尾 (LB)



■立教大学と対戦した印象。

自分たちのミスで負けた試合であった。もっと勝ちにこだわって取り組んでいかないと感じました。

■試合での、良かったところ。

各所に、いいプレーが生まれたところです。

■試合での、悪かったところ。

1つ1つの勝負事に、こだわりきれなかったところです。

■5月19日法政戦への意気込み。

昨年も負けてる相手ではあるので勝ちに貪欲にこだわっていきます。

◆インタビュー #34 副将 廣長 (RB)



■立教大学と対戦した印象。

昨年逆転負けをしている相手で、OD共にとても勢いがあり、波に乗せたら厄介なチームでもあった印象が強いです。

■試合での、良かったところ。

オフェンスでは、苦手意識のあったパスでTDをあげることが出来た事です。

■試合での、悪かったところ。

明治の自滅のミスから、流れが立教になり取り返すことが出来なかった。基礎レベルが低いポジションがあり、勝負できていない所があったと思います。

■5月19日法政戦への意気込み。

昨年の甲子園ボウル出場校と勝負できる機会なので、チャレンジャーとして出し惜しみすることなく、1Qからハードに勝負していきます。次戦も応援よろしくお願いたします。

◆インタビュー #57 副将 宮本 (OL)



■立教大学と対戦した印象。

ディフェスは、かなり関大と似ているところがあり、アジャストするのに時間がかかってしまった印象です。

■試合での、良かったところ。

OLのパスプロや1対1で勝ってる場面が前回の試合より多かったところです。

■試合での、悪かったところ。

この一点差で負けた原因は練習の詰めの甘さが出てしまったと感じたところです。

■5月19日法政戦への意気込み。

春シーズンが開幕してから1勝もできていないので、勝利を収めたいです。



◆インタビュー #91 主務 山下 (DL)



■立教大学と対戦した印象。

自分が怪我で試合に出れず、ベンチで見ている状況で、負けて1番悔しい試合でした。昨年の壁を超えるためにも必ず勝たなければならない相手であったし、それに対してフィールドに立っていない自分が不甲斐なく感じました。

■試合での、良かったところ。

ディフェンスに関して、下級生がメインで出ている中で、未経験の「齋藤」や「大島」など、目に見える結果を残せた選手がいたところです。

■試合での、悪かったところ。

ディフェンスに関して、同じプレーを何度も出させてしまったところ。アジャストが上手くいかず、立教のオフェンスのペースに飲まれているシーンが見られました。

■5月19日法政戦への意気込み。

復帰できるか分からないが、復帰できた際には、「やっぱ山下いないと止まんねーな」って言ってもらえるように頑張ります。

◆インタビュー #9 守屋(4年生)(DL)



■立教大学と対戦した印象。

なにかと因縁のある相手、絶対に勝つ気持ちで臨みました。しかし、後半に浮き足立ってしまうグリフィンズの悪い所を修正できず、昨年のドーム戦と同じような展開で負けてしまいました。最後の最後まで気を抜かなかった立教に、実力で負かされました。悔しいです、本当に悔しいです。

■試合での、良かったところ。

準備してきた事がしっかり通用し、一対一の勝負でも自分のやりたい事ができました。相手の雰囲気にも飲まれることなく、自分のペースでプレーできました。

■試合での、悪かったところ。

オフェンスに対してプレッシャーを与え続け、脅威となるようなプレーができませんでした。またチームとして、後半にしっかりとアジャストしていき、守りに入らず攻めていく姿勢が足りなかったと感じました。

■5月19日法政戦への意気込み。

オフェンスのシステムを破壊し、プレッシャーをかけ続けます。また、ボールにもガツガツ絡みに行き、今度こそタッチダウンしてみせます。

◆インタビュー #4 近藤(4年生)(K)



■立教大学と対戦した印象。

特に、ありませんでした。

■試合での、良かったところ。

自分のやるべきことに集中し、高いパフォーマンスを見せたことです。

■試合での、悪かったところ。

勝てる相手に対して自分たちが苦しい展開に持ってしまっていったところです。

■5月19日法政戦への意気込み。

自分のやるべきことを徹底し、チームが苦しい時にモメンタムを自分が持っていきます。



◆インタビュー #5 後藤珠(1年生)(WR)



■立教大学と対戦した印象。

プレー外の面で立教大学は始まりから終わりまでチームが一体となって試合に臨んでる感じがしました。試合をしていて、声などで圧倒されていたと思います。

■試合での、良かったところ。

何よりTDがとれたことが嬉しいです。出場機会が数少ない中でチャンスをものにできて良かったです。

■試合での、悪かったところ。

同じポジションの先輩方が試合に出てる中で、フィールド内からでは気付けないことをグラウンド外からの視点で自分が気付き、それを共有できていなかったことです。

■5月19日法政戦への意気込み。

次戦の法政大学戦では、チームとして春シーズン2連敗しているのですからまずは結果を求めていきたいと思っています。

個人としては、レベルの高い相手選手達との一対一にこだわっていきたいです。

◆インタビュー 櫻井監督

■立教大学と対戦した印象。

昨年からの主力が要所で抜けており、主将LB#2金子くんが負傷で出場できないなど、本学と同様な状況でした。

その中でも、昨年度リーディングラッシャーである副将RB#29星野さんのクイックネスとトップスピードは変わらずなところがあり、今年度も攻撃の軸となることを再認識しました。

■試合での、良かったところ。

前回、関西大学さんとの試合における反省を踏まえ、試合終盤まで、ポジションごとの細かいミスはあったものの、大きなミスやイエローフラッグなどが出ず、徐々にですが明治大学のフットボールを淡々と遂行する時間があったところです。

■試合での、悪かったところ。

試合終盤でのキャッチミス・タックルミス・イエローフラッグになります。常に各人が、日々の八幡山での練習から、どれだけ一つ一つのプレー及び行動にこだわれるか、試合の中でのたった一つのミスや反則で勝利がすり抜けることもあるため、「ミスと反則は勝利を遠ざける」を痛感したところです。

■5月19日法政戦への意気込み。

紛れもなく関東大学フットボールにおける雄であり、昨年度TOP8優勝校となります。本学は、挑戦者でありチャレンジャーである精神を忘れず、試合開始から試合終了まで、1プレー1プレー愚直にやり切り続けます。また、第5QにはJV戦を調整しています。敵地、川崎総合グラウンドでのご声援のほど宜しくお願い致します。

◆インタビュー 藤井助監督

■立教大学と対戦した印象。

日頃より、GRIFFINSをご支援賜りまして、誠にありがとうございます。やはりルーツ校同士の戦いということで一筋縄ではいかぬという印象でした。ゲームの結果をしっかりと受け止め、悔しさを糧として一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。

■試合での、良かったところ。

関西大学戦から試合の入りの部分、1stドライブでオフェンスは得点を取り、ディフェンスは失点しなかったという点で改善できていたと思います。

■試合での、悪かったところ。

まず敗北という結果と最後に逆転を許してしまった点をしっかり反省しつつ次に向かっていきたいと思っています。どんな経験も、その意味を決めるのは自分たちであり、本気で挑む中で出た課題は秋シーズンへの大切な宝であると思います。日常の積み重ねを一つ一つ大切に取り組んでいきます。

■5月19日法政戦への意気込み。

法政大学さんは大学としては甲子園ボウル優勝5回。東の横綱といってよいチームだと思います。その横綱に対してチャレンジャーとしてぶつかっていききたいと思っています。我々GRIFFINSは一つ一つ積み重ね前へと精進して参りたいと思っています。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

◆Photo 父母会にて、試合風景を撮影しております。今回の撮影は近藤さん、高橋さん、桑村さん、佐尾山さん、島田さん、岩崎さん、加藤さんの7名の方々にいただきました。皆様、暑い中、本当にお疲れ様でした！

◆インタビュー 学生スタッフ マネージャー

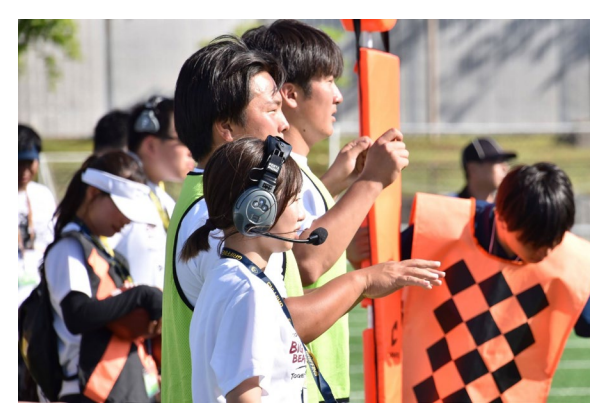
■今年、公式戦にて初戦でしたがいかがでしたか？
 春オープン戦の開幕を実感し更に気が引き締まるとともに、緊張もありました。4年生として求められていることを全うできているか、ミスなく試合運営を完了できるかなど、行動一つ一つに最上級生としての責任があることを再確認し、身の引き締まる思いでした。

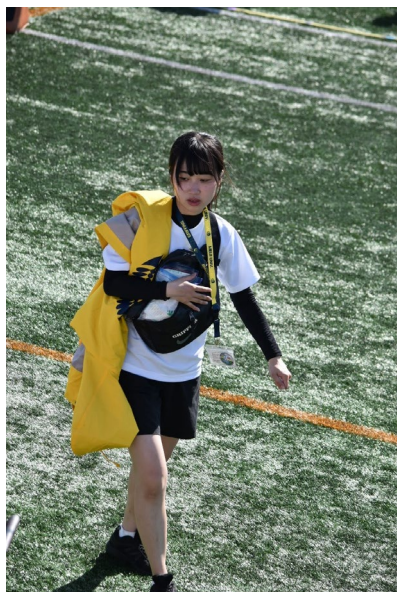
■立教戦での、試合中のマネージメントで、心がけた事は何かありますか？
 とにかく状況を俯瞰することです。90th Roots BOWLとして開催した立教戦は普段の試合とは異なった運営方式やタイムスケジュールで行動する必要があり、少しバタバタしてしまう場面もありました。だからこそ、臨機応変な対応でできる限り円滑な運営ができるよう視野を広く持とうと努力しました。

■マネージメント業務で、大変だと思うことは何ですか？
 チームの勝利に直接貢献することが難しい点です。私自身が下級生だったときに、MGRのチーム貢献方法について少し悩んだことがありました。後輩も同じように私が抱っていた悩みを感じていると知り、マネージャー全体のモチベーション向上に努められるような存在になることも4年生に求められるものだと痛感しています。

■父母会に、リクエストはありますか？
 (遠慮は不要です。何でも言って下さい。)
 日頃より多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。特段リクエストさせていただきたい事項などはございません。至らない点も多くあるかと存じますが、全力で頑張りますので今後も何卒よろしくお願い申し上げます。







■次戦
 2024年5月19日(日)14:00 法政大学川崎総合グラウンドで法政大学との対戦です。近年では、春シーズンでの法政大学との対戦が無かった**GRIFFINS**。春と対戦出来る事は、**GRIFFINS**にとって有利な事。過去の対戦にて、秋の本大会では法政大学に対し、良いパフォーマンスが出来ていないが、**NEW GRIFFINS**は変化しつつあります。関大戦、立教大戦と負けが続きましたが、そろそろ勝利を味わいたいかと。試合観戦は無料ですので、法政戦への勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！ **GRIFFINS**を皆様の熱い応援でサポートしましょう！

Go ! GRIFFINS.